

## 報告 Report

## 行田市荒木における高齢者福祉施設の設計について

—調査・基本計画及び基本設計—

原稿受付 2021年8月2日

ものづくり大学紀要 第11号 (2021) 83~86

岡田公彦<sup>\*1</sup>, 須田修二<sup>\*2</sup>, 鄭宇飛<sup>\*3</sup>, 有馬大貴<sup>\*3</sup>, 海老沼正也<sup>\*3</sup>, 田中航平<sup>\*3</sup><sup>\*1</sup> ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 准教授<sup>\*2</sup> 須田修二一級建築事務所, ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 非常勤講師<sup>\*3</sup> ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科

キーワード：建築設計, 高齢者, 福祉施設, 改修, 街づくり

## 1. はじめに

埼玉県行田市荒木にある高齢者福祉施設「さつきホーム」では、居室増床のため増築棟新築及び一部既存建物改修の検討が行われており、ものづくり大学にその相談があった。その設計を岡田研究室の学生及び教員、設計者であり非常勤講師でもある須田先生、で担当することになった。現在基本設計が終了した段階であるが、ここまでの一連の活動を報告する。

## 2. 敷地及び現況



図1 「さつきホーム」新築棟敷地解体工事前の写真 2020.09.15 撮

(中央から左側が既存さつきホーム建物。右側が旧鎗田瓦屋の母屋であり、増築棟の建設予定地)

敷地は行田市北方の荒木地区に位置し、裏日光街道と称される「主要地方道佐野行田線」が西南から東北へとクランク状に通っている。増築棟の敷地はちょうど北東クランクの角地に存在し、周辺の町並みは昔「荒木の宿」と呼ばれ行田と川俣の関所のほぼ中間に位置して五十軒以上の町屋が建ち並び、又多くの職人がおり街道の宿場としても栄えていた。

また、江戸時代から昭和初期までは行田市周辺は全国的にみても瓦の大生産地であった。その理由は瓦づくりに適した粘土が産出されており、あわせて製品の大消費地である江戸

へ運ぶのに利根川を用いた舟運が可能だったという地の利がある。老人ホーム施設「さつきホーム」の西側には190年前1831年に創業した株式会社羽鳥瓦屋があった。「さつきホーム」敷地も瓦の生産を行っていた鎗田瓦屋の跡地である。

新しい計画提案は「さつきホーム」と瓦の生産地であった地域の歴史を結び付けて描こうとした展望でもある。増築計画にあたり、残されていた鎗田瓦屋の母屋を解体した。その際に今回の計画に活用する為、鬼瓦、役物瓦、棧瓦など数百枚を保存した。鬼瓦裏面には1922年という年号と作者名が記されていた。この瓦は増築敷地外構に使用予定である。

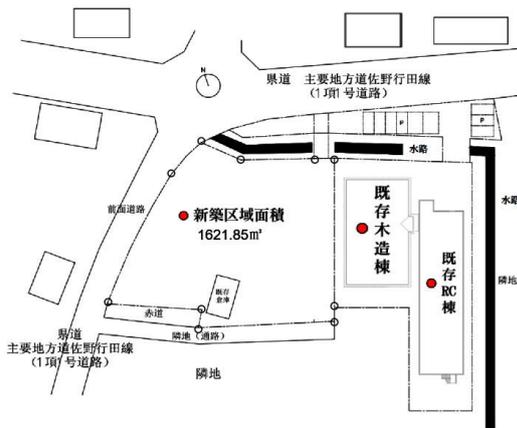


図2 「さつきホーム」敷地基本図



図3 鎗田邸より採取・保存した瓦の一部

### 3. 設計概要

増築棟敷地面積は1621 m<sup>2</sup>、増築棟延床面積は740 m<sup>2</sup>程度（木造2階建）。所要室としては、介護居室15室、エントランス、食堂、事務管理関係、浴室、多目的ホール、入居者が自然を感じられる庭、等を求められた。併せて、既存木造棟の一部を居室3室に改修し、既存も含め施設全体としては居室50室となる。

「さつきホーム」は有料老人ホームの中の介護付き有料老人ホーム（特定施設入居者生活介護施設の指定を受付たもの）である。本計画では「さつきホーム」周辺環境との関わりをふまえ、特に身体能力の衰えなどにより行動の自由が制限される方も含め、入居者の方々が人間らしい豊かな生活が出来る事を確保しつつ、地域に根付いた施設となる事を目的とする。

### 4. 基本設計

今年度のさつきホーム増改築プロジェクトは、老人ホーム施設の設計手法を明らかにする為に事例の調査を行い、複数の日本の老人ホーム施設の現状や建築パターンを分析した。その結果をベースに、管理者、介護者の要望をふまえて複数の計画を検討（図面、模型、CG）・提出し、その案に対して挙げた意見を設計案にフィードバックしつつ修正を加えていく方針で設計を進めていった。

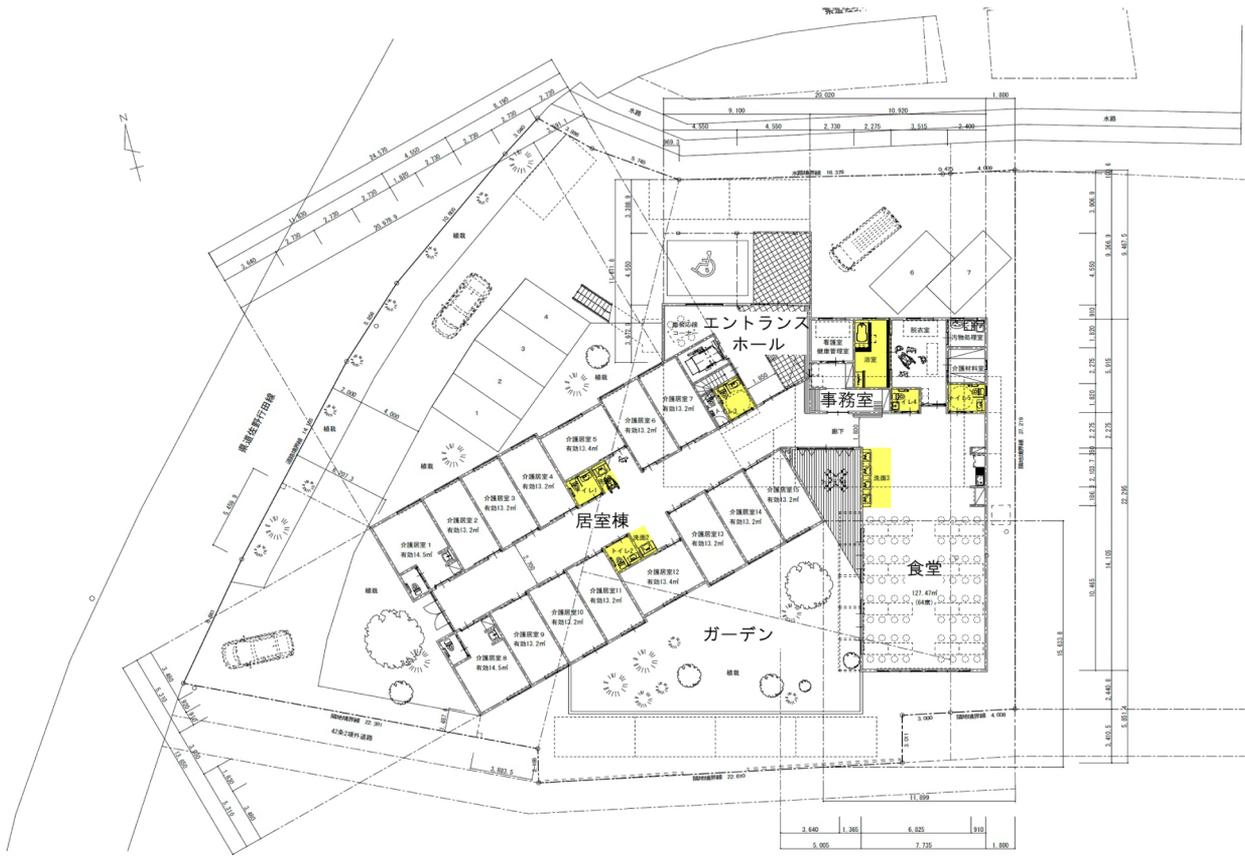


図4 増築棟1階平面図 (基本設計案 2021.06.15)

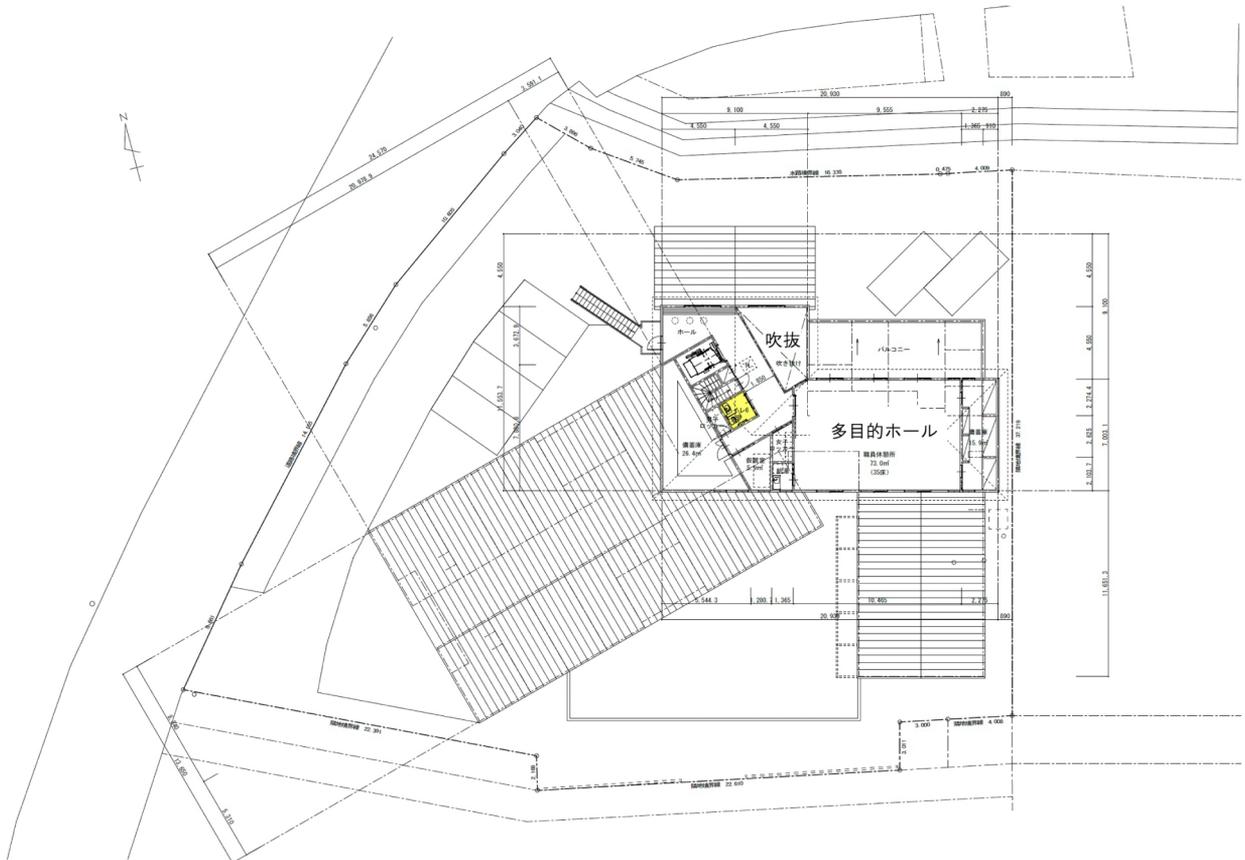


図5 増築棟2階平面図 (基本設計案 2021.06.15)

基本設計案(図 4,5)としては、宿場町の始点の角地であった立地をふまえ、街のシンボルとしての象徴性、北側の利根川及び農地に開けた眺望確保、中心部の管理ゾーンからの見通し、以上3点のバランスを考慮し、中心のエントランスから放射状に各部門が配置される構成とした。災害時の避難所を兼ねた2階多目的ホール部分は、屋根形状などに旧鎗田家の記憶、街の記憶を継承している。また、施設各所に庭を配置し、変化のある採光計画と共に外出が難しい居住者にとっても常に自然を感じられる施設となるよう配慮した。



図6 施設関係者打合せの様子と、各タイプの設計検討途中案スタディ模型の一部

## 5. まとめ

今回のプロジェクトでは、瓦の保存再利用や羽鳥瓦屋の羽鳥さんからの聞き取り、増築敷地内に建てられていた旧鎗田家の資料保存など、地域の歴史を未来につなげる活動も併せて行っている。遠く地形や利根大堰を一望できることで風土の理解を助けつつ、水害に対する防災機能も併せ持った、地域の為にも使用される多目的ホールの存在は、施設を取り巻く環境が変化しても地域のシンボルとして存在し続けるであろう。

最後に、今回の機会を与えて下さり、貴重なご意見を頂いた「さつきホーム」施設長高橋貴子さんをはじめ関係者の皆様、瓦や荒木地区の歴史についてご教示頂いた荒木周辺の皆様、実際の施工に関しご教示頂いた丸和工業株式会社の皆様に感謝を申し上げたい。

## 文 献

- 1) 鄭宇飛：行田市荒木における高齢者福祉施設増築・改修計画，2020年度ものづくり大学修士設計 2021.1.
- 2) 有馬大貴：行田市荒木における高齢者福祉施設増築・改修計画 -利用者の行動調査を踏まえた平面設計(その1)，2020年度ものづくり大学梗概 2021.1.
- 3) 海老沼正也：行田市荒木における高齢者福祉施設増築・改修計画 -空間検討による立面・断面の設計(その2)，2020年度ものづくり大学梗概 2021.1.
- 4) 田中航平：行田市荒木における高齢者福祉施設増築・改修計画 -風土な瓦を建築に再利用(その3)，2020年度ものづくり大学梗概 2021.1.
- 5) 行田市史編さん委員会，行田市教育委員会編，行田市史・資料編民俗資料集，1958.